

途 上



夏休みが終わり、9月を迎えました。今週からは教育実習もはじまり、子どもたちは、担任はもちろん、教育実習の先生たちともかかわり、各教室からは楽しそうな声が聞こえてきます。題字右の写真は、先週金曜日に撮影した児童玄関前に咲くプランターの花たちです。現在は緑化委員会のメンバーを中心に水やりを行っていますが、夏休み期間中には、スクールサポートスタッフの有志の皆様が水やりを行って下さいました。同じく夏休み期間には、庶務部の皆様に各教室のカーテン洗浄を3日間にわたり行っていただき、PTA役員さんをはじめスクサポ有志の方々による机の搬出準備作業もありました。参加された保護者の皆様、誠にありがとうございました。子どもたちのよりよい環境のために時間を割いて下さる多くの保護者の皆様に支えられ、夏休み明けからも子どもたちは、わたしらしく、生き生きと活動を行っています。

今号では、9月3日の副校長講話のお話を中心にお伝えします。

『シャノンちゃんと附属小学校』 ～小池副校長先生から～ (9月3日 副校長講話)

全校の皆さん、おはようございます。今日は、校長室にいるシャノンちゃんについてのお話です。

早速ですが「シャノンちゃんは、何を私たちに伝えていると思いますか」

このことを知るには、時間をさかのぼります。今から94年前の附属小学校の『学校日誌』に、「アメリカヨリノ人形二対スル答礼醸出金二円二十八銭ヲ学務課に送金ス」とあります。これは、アメリカから附属小に人形が贈られて、そのお礼として、お金を出したというものです。つまり、昔、附属小にはアメリカから贈られたお人形さんがいたのです。附属小にだけ贈られたのではなく、日本全国の学校に贈られました。

なぜ人形が贈られたのでしょうか。そこには、ギューリックさんというアメリカの方が深く関わっています。ギューリックさんは、日本に25年間生活し、日本を愛し、日本人の心を深く理解した方でした。当時、アメリカでは日本人をよく思わない人もあり、何とか日米関係をよくしようと努力してきました。その中で、くじけそうにもなりましたが、「世界の平和は子どもたちか



ギューリック！世からのパトロン ～世界の平和は子どもから～

子どものころから
目、はだ、かみの毛の色がちがっても
だれとでもなかよしになれる心を
育てていかなければならない。



「友情人形」をアメリカの子どもから 日本の子どもへ

ら」その思いを育てていくことが大切であるという考えに至りました。そのために、アメリカの子どもから日本の子どもに人形を贈ろうとなったのです。日本側の受け入れ窓口になったのは、今、NHKでやっている大河ドラマ「晴天を衝け」の主人公、渋澤栄一でした。日本の近代資本主義の父と言われ、数年後の新しい一万円札の顔となる渋澤ですが、民間外交にも力を入れ、渋澤が会長を務めた日本国際児童親善会が受け入れ窓口となったのです。

1927年のひな祭りに合わせて、人形は12隻の船でアメリカから運ばれました。12000体近くの人形が海を渡ってきました。3月3日に、明治神宮外苑日本青年館において、2000人の人が集まり、人形の歓迎会を行いました。その時に歌も作られました。

では、その時の人形は今どこにいますのでしょうか。実は、その後、第二次世界大戦が起こり、人形は、敵国のアメリカから送られたものということで、燃やされたり、捨てられたりしてしまいました。おそらく、附属小にいらしたお人形も、そのような目にあったのだと思います。そんな中で、「人形を捨てるのは、しのびない、人形には罪はない」と、人目のつかないところに隠しておいて、後になって見つかった人形もあります。長野県には29体が残っています。

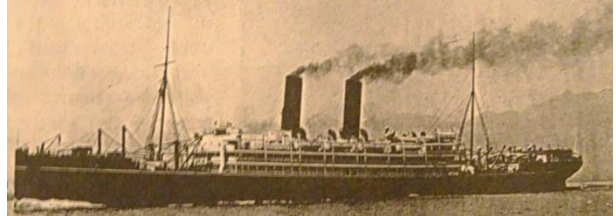
そんな中で、新たな活動が起こります。新しい友情人形の始まりです。この活動を引き継いだのがギュリックさんのお孫さん、ギュリック三世とその奥様フランスス夫人です。「祖父は晩年、人形使節のことは家族にほとんど語りませんでした。日米関係が最悪の時期でしたから、口をつぐまざるを得なかったのでしょう。日本からの問い合わせで、私は日米親善使節の一部始終を初めて知りました。祖父の思いを受け継ぐのは私の役目です」。「世界の平和は子どもから」という願いはギュリック三世に引き継がれました。

長野県にもたくさんの人形が贈られました。その活動の中心になってされているのが小林洋子先生です。私がお話をしているこれらの資料も小林先生がつくられたものを、小林先生のお許しをいただき使わせていただいています。

《長野県内の人形の紹介》

長野県内に贈られた人形の資料

人形を運んだサイベリア丸



● 来日したギュリック三世

こうしてみると、100年程前にさかのぼって、今に至ることがわかってきます。そして、多くの方々の思いが引き継がれて、ここにシャノンちゃんがあります。ギュリックさんが望んだ「世界の平和は子どもたちから」というバトンを、シャノンちゃんを通じて、皆さんに渡したいという思いも伝わってきます。

人形は黙って、全てのことを受け入れます。つまり、全てはそこにいる人間次第だということです。



長野小シャノンちゃん

これから、私を含めて、附属小学校の皆さんがシャノンちゃんとどう関わっていくか、そのことをシャノンちゃんは黙って見守っています。このことを全校の皆さんに考えてほしいと思っています。

引き続き、新型コロナウイルス感染症予防の対策をしっかりとやっていきましょう。



この日の昼休み

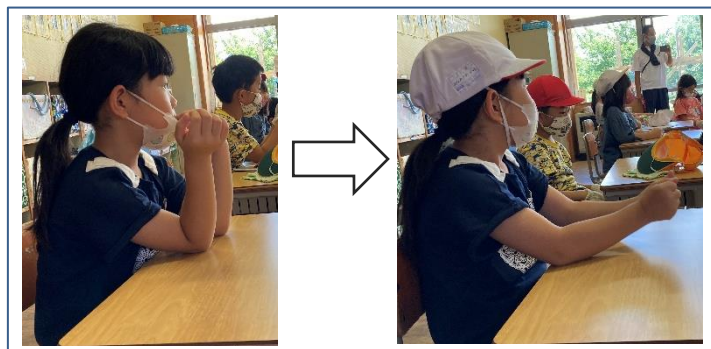
「副校長先生、シャノンちゃん見せて」

わたしたちの基地 ~1の2ベース(基地)が進化する~

夏休み明けから、1年2組では、基地(1の2ベース)づくりが始まっています。

担任の有賀先生は、夏休み前にくるみの木の近くで秘密基地づくりをしていた何人かの子どもたちの活動をきっかけ(ヒント)に、夏休み中、教室横の学級園に基地(小屋)らしきものを作り始めました。夏休み明け初日、その“基地らしき”ものに出合った子どもたち、「何なのこれ?」「先生何やっているの?」「おれも、わたしもやりたい!!」と、目の前に表れたたてももの(らしきもの)に触発され、トントンカンカン、基地作りが始まりました。

右の写真は、活動が始まる前のMさんの様子です。この日は、クラス全体で生活科の時間に、基地作りをはじめることになっていました。もちろん、大池での生き物探しもOKです。木材を運ぶ、穴を掘る、釘を打つ、この3つの役割があり、それぞれ



何をするのか確認をする場面でした。左に写るMさんは、有賀先生の話、みんなの話を、じっくりと聞いていました。ところが、右の写真では紅白帽子をかぶり、右手がギュッと握られています。帽子をかぶったのは、「私は、今日は金槌で釘を打つ」ことを決めたからです。Mさんが帽子をかぶる直前、有賀先生は「まだだよ。ちょっと待って。確認することがあるよ!」と、今にも学級園に、自然体験園に飛び出そうとする、フライングぎりぎりの子どもに声をかけていました。そんな有賀先生とお友だちとのやりとりを見ていたMさんも、い

でもたってもいられず、思わず帽子をかぶったのです。ギュッと握られた手には、きっと目には見えない金槌が握られていたのだと思います。

活動が始まると、Mさんはトントンカンカン、2階部分の床板を友だちと楽しそうに釘を打ち込んでいました。

1の2ベースは日に日に進化し、現在は、ボルダリングスペースも誕生し、オリンピック選手さながらに、楽しみつつ、競いつつ、ボルダリングを楽しんでいます。

毎回のことになりますが、多くの学級の様子を、学校便りにて紹介することができず申し訳ありません。隣の1年1組では、同じく学級園で、お月見会をするためのステージ（舞台）づくりが動き出しています。

ぜひぜひお子さんから、我が学級以外の活動の様子も聞いてみて下さい。子どもが語るお便りを通じて、長野小学校の“今”を感じていただければ幸いです。



お知らせ

1 新型コロナウイルス感染症防止対策の継続のお願い

新型コロナウイルス感染症の防止対策として、マスク着用、指手消毒、部屋の換気をご家庭でも継続してお願いします。健康観察もこれまで同様をお願いします。また、先日一斉メールでもお知らせした通り、本人および同居家族に風邪の類似症状がある場合には、登校を控えるようにしてください。よろしくお願いたします。

2 運動会の振替休日について

こちらメールでお伝えしましたが、10月23日（土）開催予定の運動会の振替休日は、現在検討しております。16日（木）のPTA常任委員会で提案をし、17日（金）以降にお知らせします。ご承知おき下さい。

3 PTA除草作業案内再通知について

先週、PTA除草作業の案内を再通知いたしました。お忙しいところ申し訳ありませんが、参加の有無について10日（金）までにご回答いただくようお願いします。

4 タッチペンの注文について

先週、タッチペンの注文封筒が配布されました。10日（金）が締め切り日となっています。購入希望のご家庭は、封筒に必要事項を記入していただき、お金を入れ、朝のうちに担任まで提出するようお願いします。